

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学論) I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	临床上、頻度の高い各疾患について、西洋医学的な知識を深める。また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学び、更に応用できるようにする。			評価方法			
授業概要	教科書をベースにした資料を配布し、講義を行う。徒手検査などは実際に実技を行い、理解と技術の習得を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 治療各論 : 頭痛						
第2週	治療各論 : 頭痛 顔面痛						
第3週	治療各論 : 顔面麻痺						
第4週	治療各論 : 歯痛 ・ 眼精疲労						
第5週	治療各論 : 鼻閉 ・ 鼻汁 脱毛症						
第6週	治療各論 : めまい						
第7週	治療各論 : 耳鳴りと難聴						
第8週	治療各論 : 咳嗽 喘息						
第9週	治療各論 : 胸痛 腹痛						
第10週	治療各論 : 腹痛 悪心と嘔吐						
第11週	治療各論 : 便秘と下痢						
第12週	治療各論 : 月経異常						
第13週	治療各論 : 排尿障害 インポテンツ						
第14週	治療各論 : 肩こり①						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (東洋医学編) I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 鍼灸臨床が説明できる。 2. 治療穴とその応用が説明できる。 3. 手技と手法が説明できる。 4. 疼痛の概説が説明できる。 5. 頭痛の鍼灸療法が説明できる。 6. 顔面痛、関節痛の鍼灸療法が説明できる。			評価方法			
授業概要	1年生の東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう 編)、 配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	治療総論 鍼灸臨床 その① (配布プリント参照)						
第2週	治療総論 その② (配布プリント参照)						
第3週	治療総論 その③ (配布プリント参照)						
第4週	治療総論 治療穴とその応用 その① (配布プリント参照)						
第5週	治療総論 その② (配布プリント参照)						
第6週	治療総論 その③ (配布プリント参照)						
第7週	治療総論 その④ (配布プリント参照)						
第8週	治療総論 手技と手法 その① (配布プリント参照)						
第9週	治療総論 その② (配布プリント参照)						
第10週	治療総論 その③ (配布プリント参照)						
第11週	治療各論 疼痛 I. 概説 (配布プリント参照)						
第12週	治療各論 II. 頭痛 (配布プリント参照)						
第13週	治療各論 III. 顔面痛 (配布プリント参照)						
第14週	治療各論 IV. 関節痛 (配布プリント参照)						
第15週	治療総論、各論まとめ						
授業外 学習指示等	1. 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2. 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	東洋医学概論Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柗木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 五臓六腑の相互関係が説明できる。 2. 病因・病機が説明できる。 3. 経絡理論が説明できる。 4. 四診が説明できる。 5. 弁証論治が説明できる。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法(四診)、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ① (配布プリント参照)						
第2週	東洋医学的な考え方 五臓六腑の相互関係 ② (配布プリント参照)						
第3週	生理と病理 「病因病機」その① 病因 外感病因 (教科書P161～167)						
第4週	生理と病理 「病因病機」その② 内傷病因、病理産物その他の要因、内生五邪、伝変と波及 (教科書P168～179)						
第5週	生理と病理 「経絡」その① 経絡の概念・機能(教科書P150～152)						
第6週	生理と病理 「経絡」その② 経絡の概念・機能(教科書P152～157)						
第7週	四診 「望診」 (教科書P202～211)						
第8週	四診 「聞診」 (教科書P213～218)						
第9週	四診 「問診」その① (教科書P219～248)						
第10週	四診 「問診」その② (教科書P219～248)						
第11週	四診 「切診」その① (教科書P249～267)						
第12週	四診 「切診」その② (教科書P249～267)						
第13週	弁証論治 その① (教科書P270～284)						
第14週	弁証論治 その② (教科書P285～311)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	経絡経穴概論Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.取穴に必要な体表解剖を習得し触知できる。 2.正経十二経脈、督脈、任脈の主要な経穴を骨度法を用いて取穴できる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴概論Ⅰで学んだ経穴を実際に人体で取穴できることを目指す。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	液晶プロジェクター、ポイントシール、メディスンペン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	ガイダンス 手の太陰肺経(主要な経穴の復習) 手の陽明大腸経(主要な経穴の復習)						
第2週	小テスト 手の太陰肺経(主要な経穴の取穴) 手の陽明大腸経(主要な経穴の取穴)						
第3週	足の陽明胃経(主要な経穴の復習) 足の太陰脾経(主要な経穴の復習)						
第4週	小テスト 足の陽明胃経(主要な経穴の取穴) 足の太陰脾経(主要な経穴の取穴)						
第5週	手の少陰心経(主要な経穴の復習) 手の太陽小腸経(主要な経穴の復習)						
第6週	小テスト 手の少陰心経(主要な経穴の取穴) 手の太陽小腸経(主要な経穴の取穴)						
第7週	体幹部の主要な経穴の復習						
第8週	小テスト 体幹部の主要な経穴の取穴						
第9週	中間試験						
第10週	足の太陽膀胱経(主要な経穴の復習) 足の少陰腎経(主要な経穴の復習)						
第11週	小テスト 足の太陽膀胱経(主要な経穴の取穴) 足の少陰腎経(主要な経穴の取穴)						
第12週	手の厥陰心包経(主要な経穴の復習) 手の少陽三焦経(主要な経穴の復習)						
第13週	小テスト 手の厥陰心包経(主要な経穴の取穴) 手の少陽三焦経(主要な経穴の取穴)						
第14週	足の少陽胆経(主要な経穴の復習) 足の厥陰肝経(主要な経穴の復習)						
第15週	小テスト 足の少陽胆経(主要な経穴の取穴) 足の厥陰肝経(主要な経穴の取穴)						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.消化器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 2.泌尿器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。 3.生殖器系を構成する各器官の構造・機能について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第4章 消化器系 1 消化管の基本構造 (1)粘膜						
第2週	2 口腔 (1)口蓋・軟口蓋 (2)口峽と扁桃 (3)舌 (4)歯 (5)唾液腺						
第3週	3 咽頭 4 食道 5 胃						
第4週	6 小腸 (1)十二指腸 (2)空腸と回腸 (3)小腸の組織構造と機能						
第5週	7 大腸 (1)盲腸 (2)結腸 (3)直腸 (4)大腸の組織構造と機能						
第6週	8 肝臓 (1)肝臓の位置と形状						
第7週	(2)肝臓の組織構造						
第8週	9 胆嚢 10 膵臓 11 腹膜						
第9週	中間試験						
第10週	第5章 泌尿器系 1 腎臓 (1)腎臓の構造 (2)腎臓の血管						
第11週	2 尿路 (1)尿管 (2)膀胱 (3)尿道						
第12週	第6章 生殖器系 1 男性生殖器 (1)精巣 (2)精路 (3)外生殖器(外陰部) 4)精液						
第13週	2 女性生殖器 (1)卵巣 (2)卵管 (3)子宮 (4)膣 (5)外生殖器(外陰部)						
第14週	3 受精と発生 (1)受精 (2)卵割 (3)着床 (4)胚葉の形成 (5)胎盤						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.関節と運動の力学について説明できる。 2.姿勢(重心と重心線)とその異常について説明できる。 3.運動路・感覚路および反射と随意運動について説明できる。 4.身体各部の機能について説明できる。 5.正常歩行と異常歩行について説明できる。			評価方法			
授業概要	鍼灸施術に必要な整形外科的所見等を運動学の観点から理解できるよう解剖学の運動器領域を再確認しながら1.運動学の基礎、2.身体各部の機能を学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動のしくみ						
第2週	1 運動学の基礎 A 関節と運動の力学 B 姿勢とその異常						
第3週	C 運道路と感覚路 D 反射と随意運動						
第4週	運動の基礎のまとめ						
第5週	2 身体各部の機能 A 脊柱・体幹の機能						
第6週	B 肩甲骨・肩の機能						
第7週	C 肘と前腕の機能						
第8週	D 手と手指の機能						
第9週	E 骨盤と股関節の機能						
第10週	F 膝関節の機能						
第11週	G 足の機能						
第12週	H 正常歩行と異常歩行						
第13週	I 顔面及び頭部の筋						
第14週	身体各部の機能のまとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学総論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院勤務6年(脳神経、鍼灸治療全般)	担当者	原 敬昌	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 医療従事者として患者に接する上で大切な事を理解する。 2 診察方法について学び、生体に対する観察力を身につける。 3 解剖生理学に基づいて正常と異常を区別することができる。			評価方法			
授業概要	医療面接、現症から始まる診察の過程を学習し、さらに様々な症候をまなぶことによって患者の持っている異常を的確に把握し、それに対する評価と正確な診断、計画の構築といった診断学の基本を学ぶ。前期では、医療面接、身体診察の概要について医学的知識から病態把握を理解させる。			期末試験 90% 課題提出 10% (100点換算で60点以上は合格)			
教科書等	1)臨床医学総論 第2版	使用器材	PC及びタブレット、液晶プロジェクター、ホワイトボード				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	「ガイダンス、診察の概要、医療面接、身体診察」 診察で大切な心得、患者に対する配慮や説明などを学ぶ。実際の診察で、患者が抱えている問題点や背景を把握するために、医療面接の手法や身体診察で確認する方法(視診・触診・打診・聴診)を学ぶ。教科書1)pp.1-28.						
第2週	「生命徴候(バイタルサイン);体温、脈拍、呼吸」生命を維持するしくみと異常を学ぶ。 「症候論;発熱、呼吸困難」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.29-33, 239-241.						
第3週	「生命徴候(バイタルサイン);呼吸」生命を維持するしくみと異常を学ぶ。 「症候論;呼吸困難」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.37-9, 195-8. p.170						
第4週	「生命徴候(バイタルサイン);血圧」生命を維持するしくみと異常を学ぶ。 血圧では、実践を通して測定手順や注意点について理解する。 教科書1)pp.34-6						
第5週	「全身の診察;顔貌、精神状態」特徴的な顔貌が示す病態、意識障害の分類や認識機能の評価について学ぶ。「症候論;ショック、意識障害」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.42-5, 246-7, 264-6, 281-3.						
第6週	「全身の診察;言語」患者の発声や会話の困難といった言語障害の分類や病態について学ぶ。 「症候論;嚥声」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.46-7 p.254.						
第7週	「全身の診察;身体計測、体型・体格、栄養状態①」身長や体重から体格の分類、病態について学ぶ。 「症候論;肥満」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.48-52, 234-8.						
第8週	「全身の診察;身体計測、体型・体格、栄養状態②」身長や体重から体格の分類、病態について学ぶ。 「症候論;やせ(るいそう)」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.48-52, 234-8.						
第9週	「全身の診察;姿勢・体位、歩行」特徴的な姿勢、体位及び歩行状態の観察から病態について学ぶ。 「運動機能検査;起立と歩行」検査について学ぶ。 教科書1)pp.52-6, 98-9, 140-1.						
第10週	「全身の診察;皮膚・粘膜・皮下組織①」皮膚、粘膜の色調や発疹を分類、病態について学ぶ。 「症候論;発疹」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.57-64, 219-22, 244-6						
第11週	「全身の診察;皮膚・粘膜・皮下組織②」皮膚、粘膜の色調や発疹を分類、病態について学ぶ。 「症候論;発疹」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.57-64, 219-22, 244-6						
第12週	「全身の診察;爪、リンパ節」患者の爪の形態異常、あるいは表在性リンパ節腫脹が観察されたときに示す病態について学ぶ。 教科書1)pp.65-7, 82-4, 102-3, 251-2						
第13週	「全身の診察;食欲、睡眠」食欲、睡眠に関わる内容を確認し病態について学ぶ。 「症候論;食欲不振、悪心、嘔吐、腹痛、吐血・下血」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.68-9, 169-70, 203-11, 232-4, 242-3, 259-64						
第14週	「全身の診察;排便、排尿」排便、排尿に関わる内容を確認し病態について学ぶ。 「症候論;下痢、便秘、排尿障害、乏尿・無尿、多尿」症候の鑑別や検査について学ぶ。 教科書1)pp.69-70, 159-62, 206-11, 214-8						
第15週	「総まとめ」学習内容の補填や試験対策などを行う。						
授業外学習指示等	1 身体診察から異常所見を見つけるために、健常状態と比較する必要があります。解剖・生理学は、その健常状態を知る科目です。本授業で触れた分野の解剖・生理について、もう一度復習をしましょう。 2 また本授業の復習のきっかけとして、各配布プリントにはキーワードチェックと課題が設けてあります。キーワードが自分なりに口頭で説明できない場合は、その単語について調べノートにまとめましょう。課題は、授業の理解度の確認、復習および自分専用の試験対策まとめノートとして、チェックさせていただきますので提出してください。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床医学各論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床に必要な各臓器の主な疾患について概念、疫学、成因や病態生理、症状、診断および治療などについて詳しく教授する			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	感染症 その1						
第2週	感染症 その2						
第3週	感染症 その3						
第4週	感染症 その4						
第5週	消化管疾患 その1						
第6週	消化管疾患 その2						
第7週	消化管疾患 その3						
第8週	消化管疾患 その4						
第9週	消化管疾患 その5						
第10週	肝、胆、膵疾患 その1						
第11週	肝、胆、膵疾患 その2						
第12週	肝、胆、膵疾患 その3						
第13週	肝、胆、膵疾患 その4						
第14週	肝、胆、膵疾患 その5						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	池田 沢子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	①神経系の概要を理解し臨床と繋げて説明ができる。 ②筋の概要を理解し臨床と繋げて説明ができる。 ③運動の概要を理解し臨床と繋げて説明ができる。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第10章 神経	A.ニューロンの構造と働き B.神経線維の興奮伝導					
第2週	第10章 神経	C.シプナス伝達 D.中枢神経系の分類と機能					
第3週	第10章 神経	E.反射 F.脊髄 G.脳幹 H.小脳 I.視床 J.視床下部					
第4週	第10章 神経	K.大脳 L.脳脊髄液 M.末梢神経系					
第5週	第10章 神経	N.自律神経系①					
第6週	第11章 神経	N.自律神経系②					
第7週	第11章 筋	骨格筋の構造と働き					
第8週	第11章 筋	筋収縮の仕組み					
第9週	第11章 筋	筋のエネルギー供給の仕組み 心筋と平滑筋					
第10週	第12章 筋	心筋と平滑筋					
第11週	第12章 運動	骨格筋の神経支配					
第12週	第12章 運動	運動の調節①					
第13週	第12章 運動	運動の調節②					
第14週	第12章 運動	錐体路系					
第15週	第12章 運動	錐体外路系					
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、生体のしくみについての知識を深めること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸施術院の院長	担当者	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 筋の種類や起始一停止、生理的特徴を理解し、イメージできる。 2. 筋肉を理解した上で、ストレッチや経絡、穴を用い、体の機能改善をすることができる。			評価方法			
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場に必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			期末試験 60% 小テスト 20% 授業内発表 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学/全部わかる人体解剖図/スポーツトレーニング理論	使用器材	提示装置				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ストレッチ体験						
第2週	臀筋群(大臀筋・中臀筋・小臀筋・大腿筋膜張筋) 起始一停止・作用 (P187)						
第3週	臀筋群 ストレッチ						
第4週	臀筋群 穴						
第5週	神経について(中枢神経・末梢神経・神経叢) (P122、136、138)						
第6週	腕神経叢 肘の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴(テニス肘、ゴルフ肘)						
第7週	腰神経叢・仙骨神経叢						
第8週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 起始一停止・作用 (P266)						
第9週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 ストレッチ (P266、217、223)						
第10週	梨状筋・腸腰筋・腰方形筋・脊柱起立筋 穴 (P266、217、223)						
第11週	股関節の痛みに対する評価(SLR含む) アプローチ法 ストレッチ・穴						
第12週	前脛骨筋・後脛骨筋 起始一停止・作用 (P275、278)						
第13週	前脛骨筋・後脛骨筋 ストレッチ・穴						
第14週	足の痛みに対する評価アプローチ法 ストレッチ・穴						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 小テストを行う前には事前に復習を行うこと。 2 発表担当者は、事前に予習をし練習しておくこと。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中		佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 直刺旋撚刺法ができる。 2. 斜刺旋撚刺法ができる。 3. 深度と角度の正確な刺入ができる。 4. 刺鍼感覚を身につける。 5. 刺鍼を自ら体験し、技術にフィードバックができる。			評価方法			
授業概要	基本的な刺鍼技術を習得する。 刺鍼練習台および、人体刺鍼にて技術の精度を高める。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技<基礎編>	使用器材	刺鍼練習台セット、ディスプレイブルステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	1年次の復習						
第2週	旋撚刺法の要点と評価基準						
第3週	押手の要点と旋撚刺法の練習方法						
第4週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第5週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第6週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第7週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第8週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第9週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第10週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第11週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第12週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第13週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第14週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 刺鍼練習台にて自主練習をするなど日々鍛錬を怠らないこと。 2. 闇雲に刺鍼練習をするのではなく、目的や目標を意識して練習に臨むこと。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 直刺送りこみ刺法ができる。 2. 斜刺送り込み刺法ができる。 3. 深度と角度の正確な刺入ができる。 4. 刺鍼感覚を身につける。 5. 刺鍼を自ら体験し、技術にフィードバックができる。			評価方法			
授業概要	基本的な刺鍼技術を習得する。 刺鍼練習台および、人体刺鍼にて技術の精度を高める。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技<基礎編>	使用器材	刺鍼練習台セット、ディスプレイダブルステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	送りこみ刺法						
第2週	送りこみ刺法の要点と評価基準						
第3週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第4週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第5週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第6週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第7週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第8週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第9週	刺鍼練習台での刺鍼練習						
第10週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第11週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第12週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第13週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第14週	刺鍼練習台および人体刺鍼での刺鍼練習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 刺鍼練習台にて自主練習をするなど日々鍛錬を怠らないこと。 2. 闇雲に刺鍼練習をするのではなく、目的や目標を意識して練習に臨むこと。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 人体刺鍼の基本的な手順を理解し、実践できる。 2. 主要な経穴の取穴ができる。 3. 指定された深度と角度で刺鍼できる。 4. 安全管理をしながら施術ができる。 5. 施術を受けることにより患者側の立場を理解する。			評価方法			
授業概要	基本的な人体刺鍼法を習得する。 デモンストレーションの後、2人1組になって施術を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 経絡経穴概論	使用器材	ディスプレイステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	人体刺鍼の基本手順						
第2週	人体刺鍼の練習						
第3週	足陽明胃経の刺鍼						
第4週	足少陽胆経の刺鍼						
第5週	足太陽膀胱経の刺鍼						
第6週	足厥陰肝経の刺鍼						
第7週	足少陰腎経の刺鍼						
第8週	足太陰脾経の刺鍼						
第9週	手陽明大腸経の刺鍼						
第10週	手少陽三焦経の刺鍼						
第11週	手太陽小腸経の刺鍼						
第12週	手太陰肺経の刺鍼						
第13週	手少陰心経の刺鍼						
第14週	手厥陰心包経の刺鍼						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 講義に臨む前に経穴の取穴部位を予習しておくこと。 2. 施術することだけに捉われず、施術者としての態度や患者への対応を常に考えながら臨むこと。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	佐藤 尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 主要な経穴の取穴ができる。 2. 主要な筋の走行を理解し、触察できる。 3. 指定された深度と角度で刺鍼できる。 4. 安全管理をしながら施術ができる。 5. 施術を受けることにより患者側の立場を理解する。			評価方法			
授業概要	基本的な人体刺鍼法を習得する。 デモンストレーションの後、2人1組になって施術を行う。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 経絡経穴概論、解剖学	使用器材	ディスプレイブルステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	筋肉の触察						
第2週	下肢の筋						
第3週	大腿前面の刺鍼						
第4週	大腿後面の刺鍼						
第5週	上肢の筋						
第6週	上腕前面の刺鍼						
第7週	上腕後面の刺鍼						
第8週	上腹部の刺鍼						
第9週	下腹部の刺鍼						
第10週	腰部の刺鍼						
第11週	臀部の刺鍼						
第12週	肩関節周囲の筋と刺鍼						
第13週	肩関節周囲の筋と刺鍼						
第14週	後頸部の刺鍼						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1. 講義に臨む前に経穴の取穴部位と筋肉の走行を予習しておくこと。 2. 施術することだけに捉われず、施術者としての態度や患者への対応を常に考えながら臨むこと。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 2年	科目名	臨床はりきゅう実技 V	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 鍼灸臨床で頻用する経穴を取穴出来る。 2. 取穴した経穴に施灸できる。			評価方法			
授業概要	灸臨床に必要な各部位の取穴技術と基本的な施灸技術を修得する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ツボ単	使用器材	白板、ベッド、鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陰肺経の前腕部の取穴と施灸						
第2週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陰肺経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第3週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手太陰肺経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第4週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手陽明大腸経の前腕部の取穴と施灸						
第5週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手陽明大腸経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第6週	ペーパーに施灸(半米粒大) 手陽明大腸経の手部・前腕部の取穴と施灸						
第7週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足陽明胃経の下腿部の取穴と施灸						
第8週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足陽明胃経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第9週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足陽明胃経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第10週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陰脾経の下腿部の取穴と施灸						
第11週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陰脾経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第12週	ペーパーに施灸(半米粒大) 足太陰脾経の足部・下腿部の取穴と施灸						
第13週	ペーパーに施灸(半米粒大) 腹部募穴の取穴と施灸						
第14週	ペーパーに施灸(半米粒大) 腹部募穴の取穴と施灸						
第15週	ペーパーに施灸(半米粒大) 腹部募穴の取穴と施灸						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						